

スポーツ小説で熱くなれ！

今年度もいろんな部活動で校内が活気づきました。中でも運動部の活躍には、誰もが熱くなったことと思います。その熱気を小説でも味わってみませんか。展示コーナーにありますので、ぜひ手に取ってみてください。ここで紹介した本以外にも多数展示しています。

大延長/堂場瞬一著

公立の進学校と私立の強豪校、対するは夏の甲子園決勝戦。両チーム監督は大学時代のバッテリーで、互いの中心選手はリトルリーグのチームメイト。互いを知りつくした者同士が熱い戦いを繰り広げる…。試合を通じて変化してゆく選手たちの心の動きと信頼関係が描かれていて、野球をすることの喜びやスポーツの本質を感じる作品です。

Over the Wind: 青春スポーツ小説アンソロジー/川島誠, 川西蘭小路幸也, 須藤靖貴, 菅田哲也, 松樹剛史著

競馬、剣道、アメフト、バスケ、フィギュアスケート、自転車にまつわる物語の短編集。それぞれのスポーツの雰囲気を感じながら、物語も楽しめる、気軽に読むことができるお話ばかりです。

2.43清陰高校男子バレー部/壁井ユカコ著

東京の中学バレー強豪校から地元福井の中学に転入してくる天才セッター、苦い思い出を抱えながら…。そこで幼馴染と再会し、ともにバレー部に所属する。そして進学した清陰高校の男子バレー部では熱血漢の先輩をはじめ個性的メンバーたちとともに、弱小バレー部の殻を破り、春高めざす「福井の星」へと成長します。

「2.43」とは春高バレーのネットの高さ。目標にたどり着くため、誰もが持つ弱さを強がって、本当に徐々に強くなっていく姿がいと美しい感じられます。

快晴フライング/古内一絵著

主将を事故で亡くした水泳部。存続の危機に立ち向かうのは、ひと癖もふた癖もある部員たち。自分の記録にしか興味がなかった龍一が主将のあとを継いでリーダーとなるが、個性爆発の部員たちをまとめられず、空中分解状態。でもそれぞれが悲しみや苦しみから少しずつ前へ踏み出していこうとする姿が、とても魅力的です。水の中で自由に力強く泳ぎ、また漂う様子が脳裏に浮かんできます。

パパはわるものチャンピオン/板橋雅弘著

子どもに聞かれて困る父親。「お父さんの仕事は何？」彼の職業はヒールのプロレスラー、しかも覆面。

子どもが父親の職業を知った時の悲しさや、父親が子どもに自分の職業を打ち明けられないでいる葛藤は、同じ立場にない人でも理解できるような気がします。親子愛や仕事愛にあふれるおはなしです。

あと少し、もう少し/瀬尾まいこ著

中学最後の駅伝、寄せ集めの6人の選手と陸上素人の先生が挑む。6人がそれぞれの悩みや思いを各章で語り、次の選手、次の章へと響きつながっていく。大人と子どもの間の世代の、強い意志と走る姿のしなやかさをひしひしと感じさせてくれます。顧問の先生の要所要所で語られる言葉がぐっときて、いい味を出しています。

最後の6区の章では無事にゴールできるのか、ハラハラしながら、いっしょに走っているような気持ちになります。

